

- 問1 九州地方の農業産出額の内訳において、米の割合が約7%にとどまる一方で、畜産の割合が約46%と全国的にも非常に高くなっている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 冬の降雪量が多く農作業が制限されるため、安定した収入が得られる工芸作物の栽培と酪農を組み合わせた経営が主流だから。 | 2. 平坦な土地が少なく大規模な水田開発が困難であったため、山間部を中心に羊やヤギなどの小規模な放牧が伝統的に行われてきたから。 | 3. 大都市圏への出荷を目的として、鮮度が重要視される野菜や果樹の生産に特化しており、家畜の飼育は副次的なものだから。 | 4. 南九州を中心に分布する水持ちの悪いシラス台地において、広大な土地を活かした肉牛や豚などの飼育が盛んに行われているため。 |
|--|--|---|--|
- 問2 日本において「モータリゼーション」が進展した背景とその影響について説明した文として、正しいものはどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 戦後の復興期に、鉄道網の整備が遅れた地域で代替手段として乗用車が普及したことにより、全国的にバスの利用者が増加した。 | 2. 高度経済成長期に、都市部での交通渋滞を解消するためにバスの利用が奨励され、自家用車の保有台数が抑制された。 | 3. バブル経済期に、レジャー目的で大型車が普及したことをきっかけに、全国の主要駅を結ぶバス路線の新設が相次いだ。 | 4. 高度経済成長を経て自家用車が広く普及し、郊外での買い物や通勤が便利になった一方で、地域のバス路線の維持が困難になった。 |
|---|--|---|--|
- 問3 日本の鉱物・エネルギー資源の輸入において、石炭の輸入先としてオーストラリア（最大）に次ぎ、全体の約15.5%を占めている東南アジアの国はどこですか。（2026年 宮崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|---------|-------------|
| 1. インドネシア | 2. 南アフリカ | 3. カタール | 4. アラブ首長国連邦 |
|-----------|----------|---------|-------------|
- 問4 宮城県などの暖かい地域で、多額の費用をかけてビニールハウスを設置し、野菜の出荷時期を本来の季節より早める「促成栽培」を行う最大の目的として、最も適切なものはどれですか。（2015年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため | 2. 高冷地の涼しい気候を利用して、他の産地より出荷時期を遅らせるため | 3. 大都市のすぐ近くで栽培することで、輸送にかかる時間とコストを抑えるため | 4. 農業や化学肥料の使用を抑え、農産物のブランド価値を高めるため |
|--|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問5 2012年度から2016年度における外国人宿泊者数の推移について、夏季（7月～9月）は80.5万人から185.8万人へ、冬季（1月～3月）は117.2万人から300.9万人へと推移しました。この期間の動向について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 夏季・冬季ともに増加しているが、増加幅は夏季の方が大きい。 | 2. 全体として宿泊者数は減少傾向にあるが、冬季のみ微増している。 | 3. 夏季の宿泊者数は増加しているが、冬季は2012年度を下回っている。 | 4. 夏季・冬季ともに増加しており、特に冬季の増加幅が夏季を上回っている。 |
|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
- 問6 北海道が産出額の第1位（約8.9%）を占め、次いで千葉県や茨城県が上位となっている農産物区分（野菜）について、千葉県や茨城県で生産が非常に盛んである理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 水はけの良い傾斜地や火山灰地を利用して、ブドウやモモなどの栽培に特化しているため | 2. 大消費地である東京に近いという立地を活かし、鮮度を保ったまま出荷できるため | 3. 冬でも温暖な気候を活かして、他の地域よりも収穫時期を早める促成栽培が中心であるため | 4. 広大な十勝平野などを利用し、大型機械を用いた大規模な土地利用型農業を行っているため |
|---|--|--|--|
- 問7 東京駅から新大阪駅を結ぶ主要な鉄道路線において、神奈川県の小田原市付近を通り、太平洋側の地域を走行する経路がとられているものがあります。この路線が通過する都道府県として正しいものはどれですか。（2025年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 福井県 | 2. 長野県 | 3. 和歌山県 | 4. 愛知県 |
|--------|--------|---------|--------|
- 問8 山形県のように県土の約七割を森林が占める地域では、森林は人々の暮らしと密接に関わっています。森林に囲まれた里地山地域において、森林が果たしている役割や文化的な背景について述べたものとして適切なものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 森林をすべて伐採して居住面積を広げることで、都市部への人口集中を解消し、近代的な景観を作り出している。 | 2. 豊かな自然環境が食文化や景観を育み、木材の供給や水源の涵養といった多様な恩恵を地域社会に提供している。 | 3. 森林が持つ地熱エネルギーを主要な産業基盤とし、山間部において重化学工業を中心とした経済活動を行っている。 | 4. 森林地帯を完全に隔離して人の立ち入りを禁止することで、野生動物の繁殖のみを目的とした空間として利用している。 |
|--|--|---|---|
- 問9 成田国際空港における貿易では、輸入額において通信機や医薬品、集積回路が上位を占めています。これらの品目が航空機輸送において優先的に扱われる理由として、最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 航空機は内陸部へ直接着陸できるため、大型の自動車などを消費地の近くへ運ぶのに適しているから。 | 2. 航空機は一度に大量の物資を運べるため、石油のようなエネルギー資源の輸送に効率が良いから。 | 3. 航空機は運送費用が高いため、輸送コストを負担できる程度の高価で軽量の製品が向いているから。 | 4. 航空機は天候の影響を全く受けないため、鉄鋼などの工業製品を納期通りに運ぶのに適しているから。 |
|---|---|--|---|
- 問10 1970年と2010年の日本の人口構成を比較すると、15歳から64歳の「生産年齢人口」の割合が低下し、65歳以上の「老年人口」の割合が急速に高まっています。この人口構成の変化が社会保障制度に与える影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 労働力不足を補うため、義務教育を終えていない年少人口の就労を奨励する制度が導入される。 | 2. 老年人口の増加により国内の消費活動が活発化し、社会保障費をすべて消費税で賄えるようになる。 | 3. 年少人口が減少するため、浮いた教育予算によって年金支給額を大幅に増やすことができる。 | 4. 現役世代が保険料などで高齢者を支える仕組みにおいて、一人あたりの負担が重くなる。 |
|--|--|---|---|
- 問11 日本の水産業において、人工的な設備で卵からふ化させた稚魚や稚貝を、外敵に襲われにくい大きさまで育ててから自然の海や川へ放流し、成長した後に漁獲する仕組みを何と呼びますか。（2018年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 養殖業 | 2. 沖合漁業 | 3. 栽培漁業 | 4. 遠洋漁業 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問12 1980年代以降、日本の経済状況において「産業の空洞化」が深刻な問題となった要因として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 国内の消費を拡大させるため、政府が海外企業の工場を積極的に誘致したため | 2. 不況への対策として、政府が海外製品の輸入を大幅に拡大させたため | 3. 円安が進んだことで輸出が急増し、国内の労働力が不足したため | 4. 貿易摩擦や円高への対応として、企業が製造拠点を海外へ移転させたため |
|--|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 南九州を中心に分布する水持ちの悪いシラス台地において、広大な土地を活かした肉牛や豚などの飼育が盛んに行われているため。	鹿児島県や宮崎県に広がるシラス台地は、稲作に必要な水を保持しにくい性質を持っています。この土地条件を克服するために、サツマイモなどの畑作や、肉用牛、豚、鶏などの畜産が大規模に展開されました。この結果、九州地方は日本屈指の畜産地帯となり、農業産出額の構成においても畜産が突出して高い割合を示す要因となっています。
問2	答え 4 高度経済成長を経て自家用車が広く普及し、郊外での買い物や通勤が便利になった一方で、地域のバス路線の維持が困難になった。	日本のモータリゼーションは、1960年代半ばからの高度経済成長期に加速しました。これにより、個人の移動の利便性は飛躍的に向上し、郊外型の大型店舗（ロードサイド店舗）が発展するなど生活様式が変化しました。その一方で、バスなどの公共交通機関は利用者の減少に直面しました。特に群馬県などは全国的に見ても自動車保有台数が多い地域として知られ、早い段階からこのような変化が顕著に現れていました。
問3	答え 1 インドネシア	日本の石炭の輸入先はオーストラリアが過半数を占めますが、それに次いで東南アジアのインドネシアからの輸入が多くなっています。地理的にも比較的近い位置にあり、重要な資源供給国となっています。
問4	答え 1 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため	野菜の市場価格は、供給が不足する時期に高くなる傾向があります。多くの産地が収穫できない冬から春にかけて、促成栽培によって前倒しで出荷することで、競争を避けつつ有利な価格で販売することが可能になります。これにより、施設維持費などのコストを上回る収益を目指しています。
問5	答え 4 夏季・冬季ともに増加しており、特に冬季の増加幅が夏季を上回っている。	2012年度から2016年度の統計数値を比較すると、夏季は約105万人の増加であるのに対し、冬季は約184万人の増加となっています。どちらの季節も2倍以上に増えていますが、実数としての増加幅は冬季の方がより顕著であり、訪日外国人観光客（インバウンド）の需要が年間を通じて拡大していることがわかります。
問6	答え 2 大消費地である東京に近いという立地を活かし、鮮度を保ったまま出荷できるため	千葉県や茨城県は、巨大な消費市場である東京都などの首都圏に隣接しています。野菜は米などの穀類に比べて鮮度が低下しやすく、輸送コストもかさむため、消費地の近くで生産して迅速に出荷する「近郊農業」が発達しました。一方、選択肢にある促成栽培は宮崎県や高知県などの遠隔地で多く見られ、大規模な機械化農業は主に北海道の特徴です。
問7	答え 4 愛知県	東京と大阪を結ぶ東海道新幹線は、神奈川県の小田原駅や愛知県の名古屋駅といった主要都市を経由する鉄道路線です。通過する都府県は、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府の1都1府6県です。選択肢にある長野県は北陸新幹線、福井県は2024年に延伸された北陸新幹線が通過しますが、東海道新幹線は通過しません。また、和歌山県には現在、新幹線は通っていません。
問8	答え 2 豊かな自然環境が食文化や景観を育み、木材の供給や水源の涵養といった多様な恩恵を地域社会に提供している。	森林面積が極めて高い地域では、森林は単なる「木材供給」の場であるだけでなく、雨水を蓄えて川の流量を調節する「水源の涵養（かんよう）」、美しい「景観」の提供、さらにはそれらに育まれた独自の「食文化」など、多面的な機能を通じて人々の生活を支えています。
問9	答え 3 航空機は運送費用が高いため、輸送コストを負担できる程度の高価で軽量の製品が向いているから。	航空機輸送の最大の特徴は速度の速さですが、船に比べて運賃が高く、一度に運べる量も限られます。そのため、運送料金を支払っても利益が出るような、通信機（スマートフォン等）や医薬品、集積回路といった「軽量で高価」な製品が選ばれます。これに対し、石油や液化ガス、自動車などは、重量や容積が大きいいため、基本的には海上輸送（船舶）が利用されます。
問10	答え 4 現役世代が保険料などで高齢者を支える仕組みにおいて、一人あたりの負担が重くなる。	日本の公的年金や医療などの社会保障制度は、主にその時の現役世代（生産年齢人口）が支払う保険料などで高齢者を支える「賦課（ふか）方式」が基本となっています。少子高齢化が進み、支え手となる生産年齢人口の割合が減少し、支えられる側の老年人口が増加すると、現役世代一人ひとりが負担する保険料や税金の負担が必然的に重くなり、制度の維持が困難になるという課題が生じます。
問11	答え 3 栽培漁業	卵から稚魚になるまでの最も生存率が低い時期を人工的な設備で管理し、自力で生き抜く力がついた段階で自然界に戻すことで、水産資源の維持と増大を図る仕組みです。これに対し、出荷するまでの全期間をいけすなどで育てる方法は養殖業と呼ばれます。
問12	答え 4 貿易摩擦や円高への対応として、企業が製造拠点を海外へ移転させたため。	1980年代のブラザ合意以降、急速に進んだ円高により、日本国内で生産して輸出する形式では利益を出すことが難しくなりました。また、日米間の貿易摩擦を解消するために、輸出ではなく消費地で直接生産する「現地生産」が推奨されたことも、国内の工場が海外へ流出する大きな要因となりました。